

令和4年度「彫刻(2年)」シラバス

学年	学科・コース等	教科	科目	単位数	履修形態
2年	美術科	美術	彫刻	2	必修
教科書	WARM UP!				
副教材					

学習の目的

- 1 表現形式の特性について理解を深めるとともに、専門的な技能を身に付ける。
- 2 表現及び鑑賞に関する創造的な思考力、判断力、表現力等を育成する。
- 3 彫刻表現の可能性を追求する態度を養う。

学習の目標

I 知識・技能	彫刻に関する専門的で幅広く多様な内容について理解を深めるとともに、独創的・創造的に表すことができるようになる。
C 思考・判断・表現	彫刻に関する専門的な知識や技能を総合的に働かせ、創造的な思考・判断・表現ができるようになる。
E 学びに向かう力・人間性等	主体的に彫刻に関する専門的な学習に取り組み、感性を磨き、立体表現を追求する態度を養う。

つきたい力	課題発見能力。発想や構想の能力。制作を通して主題を追究する姿勢。彫刻的表現力。既存のものを組み合わせて創り出す力。プレゼンテーション力。
-------	--

評価方法

	I	C	E
◇ 制作途中に作品やエスキース、制作意図を評価します。(実物、GoogleClassroomの課題)	○	○	
◇ 作品完成後は作品をプレゼンテーションしたり、互いに講評し合い、自身の思考の広がり、深まりを評価します。	○	○	○
◇ 題材に応じた観点で、完成作品や振り返りの記録(ワークシート等)を評価します。	○	○	○
◇			
◇			

履修上の注意および学習のアドバイス等

- ◇ 作品制作に必要な画材の準備、情報の取材は自主的に取り組むよう心がけましょう。
- ◇ 提出物は「授業の成果」になります。期限を守り、必ず提出してください。
- ◇ 制作はI・C・Eを相互に関連させ深めていく活動です。画材や技法への探究心を持って取り組んでいきましょう。
- ◇ 鑑賞では作品の良さや美しさを感じ取り、作者の個性や美術文化の良さ感受する姿勢を持って臨みましょう。
- ◇ 自分の考えを深めたり、伝えたりする活動の際は「絵」と「文字」を使って表現します。

年間指導計画

学期	月	学習内容	学習のねらい・目標	考査	思考を深める問い (C・E)	I: 知識理解	C: 思考判断表現	E: 学びに向かう力・人間性
第1学期	4	人物クロッキー	人体の構造を意識しながら対象の全体像を素早く把握できるようにする。		人体の構造を意識しながら対象の全体像を素早く捉えてみよう。	○	○	○
	5	木炭デッサン(石膏像)	石膏像のデッサンを通して、彫刻の持つ量感、質感、奥行きや空間を再認識する。面を意識し、その明るさの違いを観察することで、光と立体の関係について理解を深める。		石膏像の量感、質感、奥行き、それを取り巻く空間を意識して観察してみよう。	○	○	○
	6	塑造(立体構成)	モチーフの特徴を観察し、粘土の可塑性を生かし、形を確かめながら近づけていく。フォルムの面白さやモチーフ同士の構築を意識し、動静について理解を深める。また、制作活動を通して粘土の保管方法や用具の使用方法を習得する。		フォルムの面白さやモチーフ同士の構築を意識し、動静について考えてみよう。	○	○	○
	7	人体解剖学 主制作に向けて	鑑賞(自) 人体解剖学の基礎を学び、人体彫刻の鑑賞を通して理解を深める。(頭像、胸像、半身像、等身像、トルソ等)		背骨の曲がり具合、骨盤の傾き等確かめてみよう。	○	○	○
第2学期	9	自主制作(人体を題材に)	テーマを設定し、主に半身像以上の人体彫刻を制作する活動を通して、これまでに学んだ知識を統合する。塑造の場合は型取りの方法について学習し、作品として展示する際の工夫についても考える。		(大きな)立体で表現するに相応しい主題を考えてみよう。	○	○	○
	10					○	○	○
	11	立体造形 ~面の構成~	ステレンボード等を用いて面の構成による立体を制作する。あらゆる角度から鑑賞に耐えうる配置を考え、理想的なバランスについて多視点、多面的に考える姿勢を養う。		点・線・面・立体の関係は？ バランスの良い面の構成とは？	○	○	○
	12					○	○	○
第3学期	1	塑造(人体表現)	自分の手または頭部を題材に作品を制作する。それぞれのテーマを設定して彫刻として表現していく中で、自己の内面に迫る表現手法について考え、適切な技法や表現を選択できるようにする。		表情豊かな手や顔を通して自己の内面を表現してみよう。	○	○	○
	2					○	○	○
	3	鑑賞	具象彫刻だけでなく抽象彫刻について触れ、作家の変遷を通して抽象表現の考え方を学ぶ。		抽象とは？	○	○	○

※行事等で変更になる場合があります。